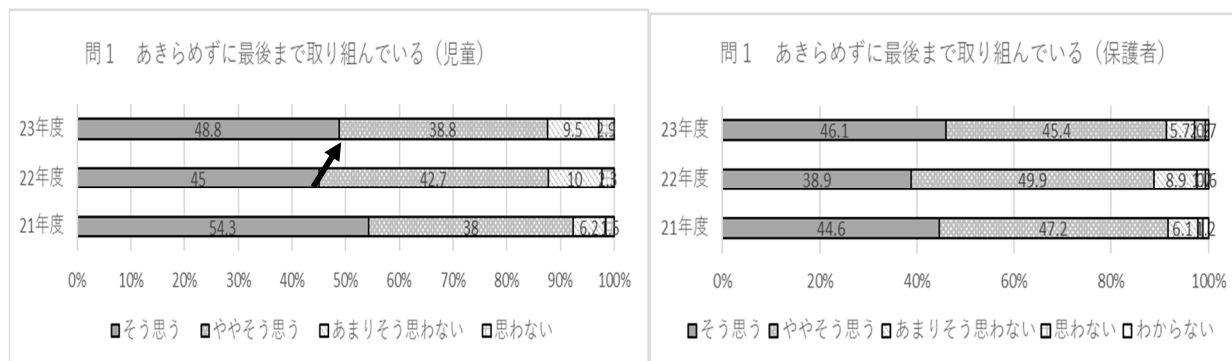


「令和5年度 教育活動に関するアンケート集計から」

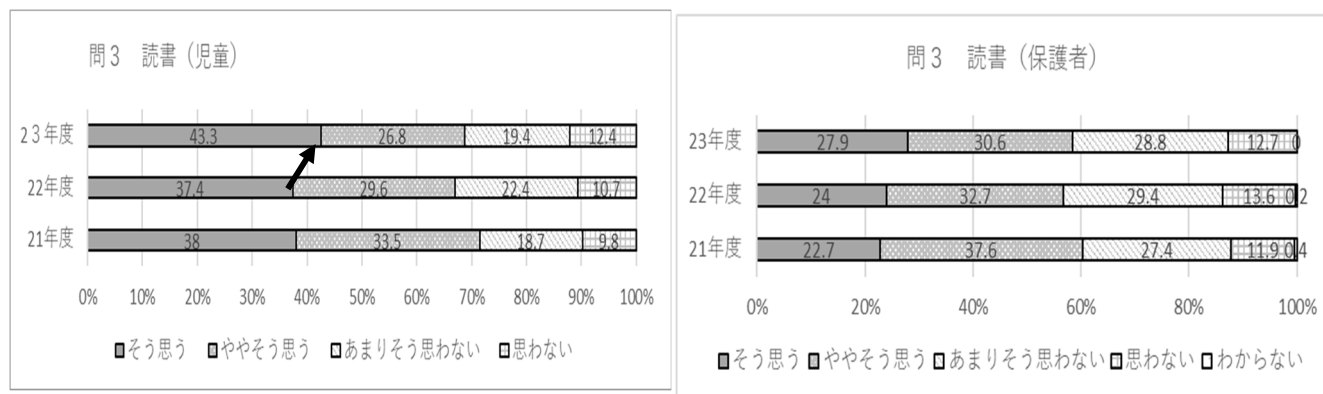
この度、令和5年11月に実施した教育活動に関するアンケートについて集計（児童659名／保護者458名）がまとまりました。その中で、5項目の結果について取り上げ、お知らせします。ご一読ください。

● 問1「しんけん」 あきらめずに最後まで取り組んでいる。



昨年度と同様、9割近くの児童が「そう思う」「ややそう思う」と答えている。そのうち「そう思う」と答える児童が増えている。昨年度まで国語科での授業研究に続き、今年度は「児童が楽しいと思う算数科」の授業研究に取り組んできた。苦手なことがあっても最後まで取り組む経験を重ねることができたのではないかと考える。「できる」「やってみたい」と思える授業を今後も意識して行っていきたい。

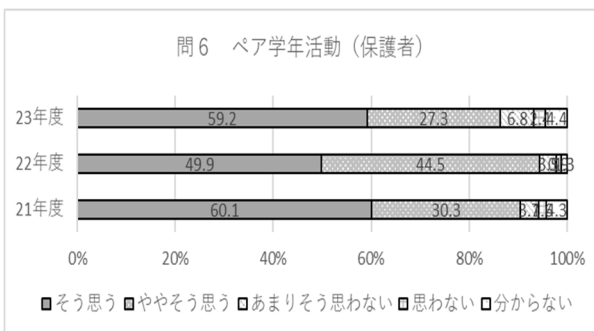
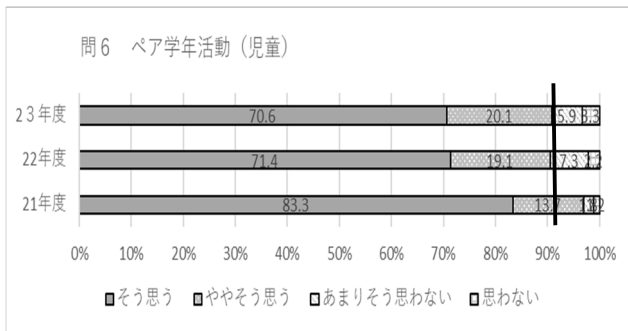
● 問3「しんけん」 本に関心を持ち、自分から本を読んでいる。



昨年度と比べ、本に興味をもつ児童が増え、「そう思う」と答える児童が増えている。考えられることとして、しんしょう・応援隊の図書ボランティアの方々による読み聞かせ、読書タイムを週1回の設定、国語の単元に関連した内容の本に触れる機会があることなどの影響があるのではないかと考える。さらに、図書館の本を廊下の移動棚に置くなど、学校図書館に行く時間がない状況でも身近に本に触れられる環境を設定してきた。

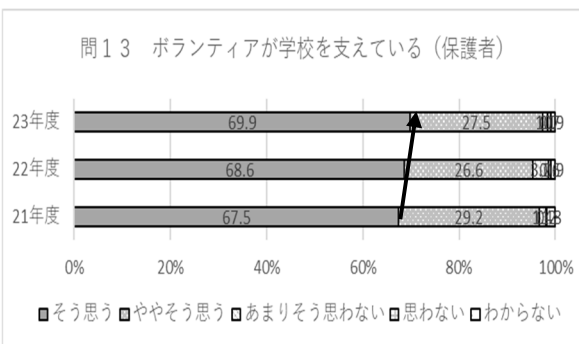
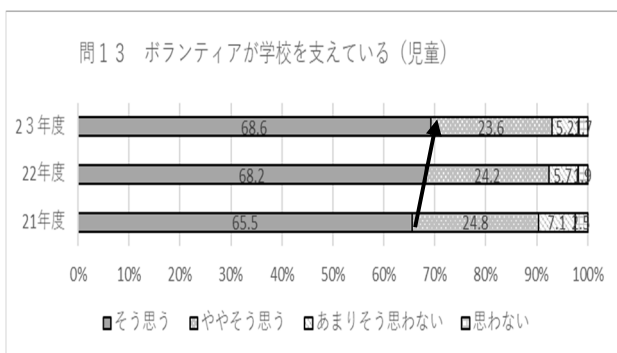
秋の図書館の工事中には、理科室に臨時図書館を開いたり、デリバリー図書館として各教室に図書館の本を運んだりして、本に触れられる機会を途切れさせないように工夫した。今後も様々な内容の本に触れられるよう工夫していきたい。

● 問6 「なかよし」ペア学年活動を楽しんでいる。



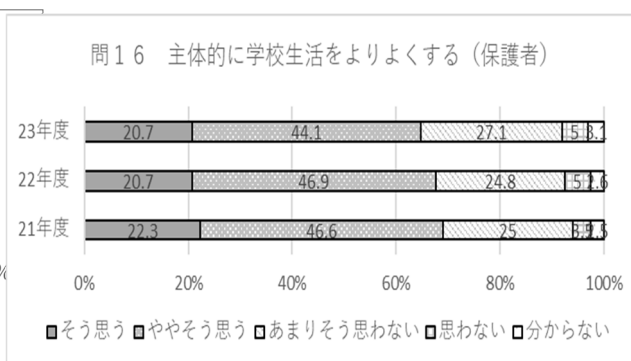
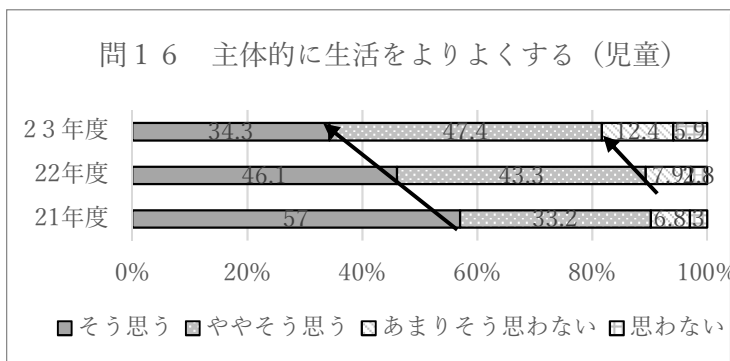
昨年度と同様、今年度も9割の子どもがペア活動のよさを実感している。「なかよし Day」などの行事だけでなく、ペア学年を同じフロアにすることで、日常的に関わることができ、互いに意識して交流を行っている。上学年には主体的な力を育み、下学年にはよいモデルを見ることによるキャリア教育につながっている。今後大切にしたい取組である。

● 問13 「だいすき」ボランティアとして学校を支えている。



まちたんけんや家庭科の学習だけでなく、普段の学習や学校生活の中など様々な場面で、しんしょう・応援隊の方々の力をたくさんお借りした。助けてくれる大人が身近にいること、守られ支えられていることを感じている。約170名の方が登録してくださり、支援していただいていることを、当たり前ではなく、感謝する気持ちを素直に出せる心情を育てていきたい。

● 問16 「しんけん」 主体的に学校生活をよりよいものにしようとしている。



「主体的に」「よりよく」自分から考え行動することについて、「そう思う」という児童が4割を切っている。指示されたことを真面目に取り組むことができる子どもたちではある。今年度、6年生の有志の声から始まった「校庭開放」に向けての取り組みがあった。「校庭で遊びたい」という願いを代表委員会に議案として発信し、全校で話し合い、関係各所と調整を行い、半年かけて実現にこぎつけた。

生活を「よりよくするために」、何ができるだろうかと自分で考え行動できる子どもを育てていきたい。